

◆ ゼミナールの研究テーマ

今の政治について「どうするべきか」を考えるためには、今の政治が「なぜ・どのように動いているのか」について検討する必要があります。現状を十分に検討せずに提言・提案を行えば、方向が間違っていたり、実現可能性が低かったりしかねないからです。本ゼミナールでは、政治の現状について客観的・論理的な理解を深めるために、科学的推論（実験・実証分析・数理理論）の方法を紹介します。そして、目の前にある問題について直感や思い込みを捨てて検討する力を身につけることを目指します。研究テーマとしては、一般有権者の政治行動・政治意識形成のプロセス、および一般有権者と政治家・政府・メディアとの関係を中心に、現代政治全般に関心がある人を歓迎します。地域的な関心は、日本やアメリカを始め、世界中どここの国でも構いません。卒業論文では、量的手法・数理理論を用いた分析をしてもらいます。

◆ 研究内容

<外国書研究> 受講者の関心に応じ、投票行動、政治参加、世論、政治コミュニケーション・メディア、政治心理、政治と社会的アイデンティティ・ジェンダー、政治家行動、選挙・政治制度などの分野から英語論文を購読します。各文献の担当者を決めて英文レジュメを準備してもらい、その人の司会でディスカッションをします。また数回に一回は、読んだ文献の内容に関連するトピックでグループ・ディスカッションを行い、実践的な理解を深めます。

<卒業論文・3年次> 科学的思考法を理解し、それに沿った研究を行えるようになることを目指します。前半は仮説検証の考え方、仮説検証の理想形である実験について学びます。後半は、世論調査などの観察データを用いた研究デザイン、および実証的な分析を行うツールとして、統計ソフト R を用いた分析の行い方と、分析結果の適切な解釈について学びます。理論構築や数理理論の基礎については政治過程論の受講を勧めます。夏から秋にかけて、グループに分かれてサーベイ実験のレプリケーションに取り組んでもらう予定です。冬にかけて実験を実際に行い、分析と考察をしたいと思います。

<卒業論文・4年次> 各自の関心に応じてテーマを設定し、実験、実証分析、もしくは数理理論を用いた分析を卒業論文にまとめます。基本的には、仮説検証型の論文を書いてもらいます。ゼミ内では、進捗を発表し、討論を行います。

<卒業論文テーマ> 本年度がゼミの第2期なので、どんなテーマ・関心が受講者から出てくるのかを楽しみにしています。上で述べたテーマに加えて、現代政治の現状分析に関連していれば基本的に何でも歓迎します。

◆ 応募学生に対する希望

<文献の読み方> 文献や知識を、情報としてただ受け入れるのではなく、それらを使って考え、ディスカッションに積極的に参加することを求めます。文献を読んだら、少なくとも2-3つは疑問やコメントを準備してください。ゼミ中に黙って発言しない場合は、読んでいないのと同じと見なします。誤解や論点のズレがあっても、むしろそれらは理解を深めるきっかけになるものですから、間違いを恐れず発言してください（理解間違い程度で減点はしません）。

<英語について> 現代政治分野の実証・科学研究は、欧米圏で多くの成果があります。本ゼミナールでは短い新聞記事ではなく、学術論文・学術書をメインに英語文献を読むことを覚悟してください。英語の授業ではないので、1字1句の精読は求めませんし、勧めません。複雑な英語論文の要点をどう効果的につかみ、その論点について自分の理解が深められるか、という点に注力してください。年に数回、英語での特別講義を実施することも想定しており、学生の意欲がある場合、留学生がいる場合は、英語でディスカッションを行う可能性もあります。また、欧米圏における知見を、日本を含む非欧米圏のコンテキストにどう適用・応用していけるかについて考えるモチベーションがある学生を歓迎します。

<分析手法について> 本ゼミナールの卒業論文は、量的分析手法、もしくは数理理論を用いることを条件とします。具体的な手法・ツールについてはゼミ中に紹介するので事前知識は特に求めませんし、数学が得意である必要もありません。ただし、数字・統計を用いた論理的・客観的な思考法を育てる心の準備をしてください。

◆ 成績評価方法

外国書研究：担当文献の発表・ディスカッションの司会、およびディスカッションへの参加度を総合的に評価します。

卒業論文：研究発表・ディスカッションの参加度、グループワーク・卒業論文のクオリティを総合的に評価します。

研究分野...実証・数理政治学（特に選挙、世論、民主主義）・政治学方法論

募集人数...10-12名

試験方法...身上書（独自書式）、面接

学科指定...なし

関連パッケージ...a 政治理論系 b 国際政治系 c 社会学系

関連科目...政治過程論、政治行動論、計量政治学、メディアと世論、現代社会心理学